

(株) 芦ノ牧ホテルを拠点とする被災者支援に関わる報告(3)

平成 24 (2012) 年 5 月 28 日

(株) 芦ノ牧ホテル 震災被災者支援チーム

概要

本中間報告(3)は、(株) 芦ノ牧ホテルが展開している東日本大震災の被災者支援に関わる活動内容をまとめたものである。

2011年3月11日の東日本大震災の発生から1年ばかりが過ぎ、被災地の復興が徐々にではあるが進んでいる。被災者の心身の疲労も時間が経過するごとに和らいでいくことを期待するばかりである。被災地の復興が進んでいるとはいえ、被災者は元の暮らしを取り戻しているわけではない。

今回、12年3月31日に私たち被災者支援チームは福島県と宮城県の被災地を訪れた。図1は、石巻港の堤防の様子だが、地元の小中学生の手で石巻港壁画大作戦と称し、防波堤に壁画が描かれていた。向かって奥が海、手前が陸である。

図1



2012年3月31日社員撮影

このような子どもたちの、復興への前向きな気持ちを後押し出来る様、当ホテルも微力ではあるが支援を続けていくことを再確認した。

1. 福島の子どもたちを守る会

福島第一原発事故(以下原発事故と記述)による放射線の健康被害から子どもたちを守るべく、1人の主婦がNPO組織を立ち上げた。それが「福島県の子どもを放射線から守る会」である。当ホテルはこの会の発起人である今井由樹子氏と連携し、1人一泊4,500円で、放射線の線量が比較的高い地域に住む親子の避難を受け入れてきた。しかし実際には、ホテルを利用する親子に負担はなく、宿泊にかかる費用はNPO組織への寄付の他、ふくしまっ子体験活動応援活動事業の支援から賄われた。

このような当ホテルの取り組みは、2011年10月14日発行の産経新聞社会面に掲載された(図2参照)。

「福島の子どもを守る! 避難サポートプロジェクト」ホームページ

<http://ameblo.jp/fukushima-support/>

図2



2011年10月14日産経新聞

2. ふみだせ探検隊

当ホテルでは、母子の避難受け入れ以外にも、複数の企業から協力をいただき、被災者支援の活動の幅を広げてきた。その中には、ソフトバンクの社長である孫正義氏がいる。同氏は「東日本大震災復興支援財団」(以下支援財団と記述)を正式に発足させ、東日本大震災に対して個人で義援金・支援金合計100億円の寄付を表明した。そのうち40億円が支援財団に振り分けられている。支援財団は、支援活動の一環として、「ふみだす探検隊」という活動を実施している。この活動は、放射線の健康被害を気にす

ることなく、安心して遊べる場所を子どもたちに与えたい、という福島県で子どもを育てる主婦の声から発足した。当ホテルも支援財団の協力を得てプロジェクトに参加している。

活動の内容として、2011年12月～2012年1月の間に、小中学校の冬休みを利用し、体験学習プログラム「ふみだす探検隊」を、2プログラム4回にわたって実施した。このとき、合計136名の福島県の子どもたちを当ホテルで受け入れている。子どもたちは屋内スポーツ体験として、当ホテルの体育館でバドミントンやフットサル、室内温水プールを利用し水泳を楽しんだ。プログラムを終えた子どもたちの顔は晴れ晴れとして、満足そうであった。子どもたち全員からは、「また参加したい!」という声が聞かれ、保護者の方からも、「自分で身の回りのコトが出来るようになった。兄弟に優しくなった。自分から進んでわからないことを調べるようになった。」など、ただ楽しむだけではなく、活動を通して子どもたちの成長に役立ったという嬉しい感想も寄せられた。図3は、『ふみだす探検隊活動レポート』に掲載されていた活動の様子である。

図3 ふみだす探検隊活動レポートより



<http://minnade-ganbaro.jp/report/experience/post.html>

3. 大分県中津市豊田小学校からのメッセージポスター

「福島の子どもを放射線から守る会」の活動をうけ、2011年11月20日に、当ホテル会長小野剛の母校である、大分県中津市豊田小学校の生徒一人ひとりのメッセージが書かれたポスターが届けられた。同小学校の豊田小児童会長は、「福島では外で元気に遊べないと聞きます。メッセージを見て、少しでも元気になってくれればうれしいです」と述べた。豊田小学校の児童数は420人であり、子どもたちによって作られたポスターは当ホテルに飾られている。大分県という遠い地域の子どもたちからの応援は避難生活で精神的にも弱っていた福島の子どもたちの心を勇気づけた。

図4は、当ホテル会長小野剛が、被災者支援についての講演のため、豊田中学校を訪れた際、メッセージポスターを豊田小学校の児童から受け取る様子である。その様子は、2011年12月16日発行の大分県合同新聞に掲載された。

大分県合同新聞 http://www.oita-press.co.jp/localNews/2011_132399653319.html

図4



2011年12月16日大分県合同新聞

4. 被災者支援事業

当ホテルでは、被災者の就職を応援する事業を行っている。当ホテルの女将である南原が中心となり2012年4月17日にホテルの従業員宿舎を改築し、焼肉店『芦の牧韓国焼肉市場シジャン』をオープンさせた。従業員には、福島県楢葉町から会津美里町に避難してきた被災者の方を迎え営業している。

同店では手作りにこだわっている。店の外装には、近くの山から竹を分けてもらい使用した。また、食材として韓国式焼肉でよく利用される『えごまの葉』を当ホテルの畑で栽培し、お客に提供している。図5は、開店当初の店舗の様子である。

図5 芦ノ牧韓国焼肉市場シジャン



津波や原発事故による被害を受けた地域では、元の場所がかつてと同様に飲食店などを復活させ、営業するには、少なからず弊害がある。そこで当ホテルは、被災者の大きな悩みの一つである、雇用面での安定とともに、被災地から仮設住宅に避難している方も気軽に足を運べる安価な焼肉屋を開店した。これによって、食を通じた娯楽の両立を実現させる。

5. 今後の活動と被災者支援について

東日本大震災から1年が過ぎ、当ホテルに避難していた方々も全員が、仮設住宅や親類の元など、別々の場所に生活の拠点を移している。生活の場が落ち着いた現在、次に問題となってくることは被災者の雇用である。当ホテルでは、被災者の生活を長期的に安定させるということ目標に、一度始めた支援は最後までやりきる、という信念を持っている。今後も、さまざまな事業を計画・実施し、被災者の雇用創出を行い、被災地の復興を目指していく。

出典/閲覧 Web サイト

「福島の子どもを守る！避難サポートプロジェクト」ホームページ <http://ameblo.jp/fukushima-support/>、

ふみだせ探検隊活動レポート <http://minnade-ganbaro.jp/report/experience/post.html>

大分県豊田小学校HP <http://syou.oita-ed.jp/nakatu/toyoda/guide/guide3.html>

大分県合同新聞 http://www.oita-press.co.jp/localNews/2011_132399653319.html

芦ノ牧ホテル <http://www.gsl-ashinomakihotel.jp/index.html>

社名：株式会社芦ノ牧ホテル

代表：代表取締役会長小野 剛

所在地：福島県会津若松市大戸町大字芦ノ牧 796

問い合わせ先：0242-92-2206 AM9：00～PM9：00

：info@gsl-ashinomakihotel.jp

URL：<http://www.gsl-ashinomakihotel.jp/index.html>